

受験記録

文責：岩元

【大学入学までの流れ】

小学3年生

日能研谷山校に入塾 通塾週1回（国数）

小学4年生

通塾週2回（国数社理）

小学5年生

通塾週3回（国数社理）

小学6年生

通塾週4回（国数社理）+自習週2回

中学1年生

鹿児島私立ラ・サール中学校入学

高校3年生

鹿児島私立ラ・サール高等学校卒業

浪人

予備校はロググラムに通う

北海道大学総合理系数学重点合格

【各学年での詳細】

幼少期

幼いころからパズルや数字遊びを好んでいた反面、読み書きなど言語関係のことが苦手だったそうです。この時点から理系よりであったと思います。モンテッソーリ教育を導入している幼稚園に通っていたので、自分の得意なパズルや計算能力が伸びていったと思います。小学校は近くの公立小学校に通っていました。

小学2年生

塾の体験やオープンテストなどを受け始めていました。

小学3年生

2つ上の兄が小学3年生から日能研に通っていたので、同じように通い始めました。週1回国語と算数を受けていました。この時はまだ偏差値は出ていなかったと思います。

小学4年生

理科社会が増えて週2回に増えました。偏差値をはかるテストが始まりました。記憶が正しければおおよそ国語48くらい、算数が68くらい、社会が53くらい、理科が58くらい総合で偏差値57,8だったと思います。このころから計算と漢字の宿題が毎週出されることとなり、1週間分の宿題を6等分にして、毎朝計算と漢字をしてから学校に通っていました。この習慣のおかげで計算のスピードと正確さを両立できていたのだと思います。

小学5年生

教科が変わりはないですが、国語と算数は週2回授業があったので、それに合わせて週3回に増えました。この時までは学習のスタイルとしては塾の授業で予習一家でその内容の宿題となっていました。宿題は塾のテキストから毎回分量が決まって出されていました。

小学6年生

夏休み前までは小学5年生のころと変わらないスタイルでした。この時、第一志望校であったラ・サール中学校の合格確率は40~50%くらいで合格は少し怪しい感じでした。夏休みになり僕自身もそれを自覚していたので、

朝から塾に行き自習→夜まで授業の日々を送っていました。夏以降も塾の空いている日は自習に行っていました。母親は毎日送迎してくれていたのので、感謝するとともに家族のサポートは大きかったと感じています。また、この時同学年の友達も一人一緒に自習に来ていたので、それも励みになって楽しく塾にほぼ毎日通えていました。僕は人よりも才能がない自信はあったので過去問の演習量含め勉強時間はとても長かったです。過去問は20分を3周したので、最後の方は問題を見て答えを思い出すこともありました。いよいよ受験になりますが、滑り止め含めて地元鹿児島がラ・サール中学校以外に2つ、長崎の青雲中学校、佐賀の早稲田佐賀中学校、愛媛の愛光中学校の6つ受けました。結果としてはすべて合格をとれましたが、ラ・サール中学校に落ちていたら、兄と同じく愛光中学校に通っていたと思います。

中学生～高校生

それなりの進学校であったので、授業のペースが速く、部活もしていたので、塾に通える環境ではなかったです。ただ、授業についていけば高校2年生には大学受験に必要な知識の大半を習い終えていたので、高校3年生はこれまでの復習をするだけでした。僕は中学受験で燃え尽きたとまでは言いませんが、しばらく勉強をすることが嫌になっていたのので、授業に途中からついていけず、そのツケもあり、現役生のころはセンター75%くらいで終わり、そのまま北大を受けて落ちました。

浪人生

浪人は地元の自習がメインの予備校に行きました。理由としては、理科が特に壊滅的で大手の予備校に行ってもわからないことだらけで授業を受けても意味がないと思っていたのからです。とにかく問題集をやりこむことで単語など覚えるものを徐々に定着させて行けたと思います。またこのころは勉強自体がとても楽しかったです。あらためて一から学ぶことで理解が以前よりはるかにできていて、論理的に考えることが楽しかったからだと思います。この年から共通テストになって、共通テストは80%だったのでそこまで現役生のころから伸びませんでした。2次試験は100点くらい伸びたと思います。

【中学受験について】

これはあくまで僕の持論ではありますが、中学受験は親の財力がかなりものをいうと思います。僕の家庭はありがたいことに世間一般からすると裕福な家庭だったので、塾に行き受験することが許された家庭でした。もう一つ必要な能力があるとすれば発想力だと思います。中学受験の算数は計算でどうにもならない問題もたまにあります。進学校に行きたいならそのような問題が解ける必要があると思っていますので、これはある程度鍛えられるとはいえ、その子の持っている能力も大きく影響すると思います。

大学受験のことを考えると進学校と呼ばれる学校に中学校から通う必要があるかといわれると個人的にはないと思います。ただ、周りに頭の良い人たちも多いので人脈という意味では非常に大きなアドバンテージがあると思います。

【大学受験について】

大学受験は中学受験と違って才能がなくても努力次第で上を目指せると思います。北大は旧帝国大学群の中では基本的な問題が多く、良問といわれる問題が多いです。基本問題の演習をこなして、それをしっかり利用できるようになると受かる可能性は十分にあると思います。北大に受かるラインとして僕の受験した2021年は共通テスト8割、2次試験6割だといわれていました。1問のミスが命取りにはなるので、ミスを極限まで減らせるようにテストでは見直しする習慣があるといいと思います（僕は数学で計算ミスをしないうる自負があったので見直しはしませんでした。あまり得策ではない気がします）。